



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R東日本労働組合
発責 情報宣伝部
2024年1月1日号外

2024年 謹賀新年



静岡県由比からの富士山

新年あけましておめでとうございます。組合員・ご家族のみなさまにおかれましては輝かしい新春を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年12月16日、東日本ユニオンは結成十周年を迎えることができました。これもひとえに組合員・ご家族のみなさまのご理解とご協力によるものであり、心より御礼申し上げます。

結成以来、社会の変化やJ R東日本労政の転換など、幾多の困難を組合員の英知を結集させ乗り越え、今日を迎えました。結成理念である「J R労働運動の大同団結・一元化」はこの十年間変わることなく推し進められ、今後変わることはありません。全組合員とさらなる組織拡大・強化にむけて邁進していきます。

2023年の春闘は、定期昇給を含む平均3.78%の有額回答・賃金引き上げを実現したものの、物価高騰などにより実質賃金はマイナスであり、賃上げが追いついていませんでした。続く期末手当の取り組みでは、私たちは「年間6ヶ月以上の水準」に戻すことを一貫して主張してきました。結果、会社回答は年間5.15ヶ月+10万円となり、私たちの要求からは大きくかけ離れた悔しい結果となりました。しかし、取り組みでは組合員はもとより、多くの社員のみなさまに支持や応援を得ることができ、職場から寄せていただいた多くの「声」は大きな力となりました。私たち東日本ユニオンは環境の変化や業務の多様化に対し、一生懸命頑張ってきたからこそ、会社の一人勝ち、低額回答の悔しさを忘れていません。2024年も組合員と家族の生活維持・改善・向上にむけ闘い続けます。

「変革2027」の実現にむけた会社組織の再編や「融合と連携」は、新たな業務だけでなく、社員の生活スタイルの変更も余儀なくされています。J R東日本は「究極の安全」をトッププライオリティとしています。しかし、会社の問題意識は「サステナブル」ばかりが前面に打ち出され「変革2027」の完遂と「収入確保」にむけた社員へのプレッシャーばかりで、安全に対する意識の薄さを感じざるを得ません。また、会社の一方的なルールの解釈や現場の社員を置き去りにした施策の実施は認められません。労働組合としてのチェック機能を発揮していきます。そして私たちは社員・お客さまの命と財産を守るため、安全第一を訴え続けていきます。2024年が組合員・ご家族のみなさまにとって、健康で実りある一年であることをご祈念申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

2024年元旦

J R東日本労働組合 中央執行委員長 藤本圭一